

社会資本総合整備計画 事後評価書															
計画の名称	安全で快適な自転車通行環境づくり（防災・安全）														
計画の期間	平成30年度 ~ 令和04年度（5年間）												重点配分対象の該当	○	
交付対象	浜松市														
計画の目標	自転車通行空間の整備により、自転車・歩行者ともに安全に安心して通行できる道路空間を創出し、自転車利用の促進を図るとともに、歩道内の安全な歩行空間を確保する。														
全体事業費（百万円）	合計（A + B + C + D）		630	A	630	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / （A + B + C + D）	0	%	

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30当初	H32末	H34末
1	浜松市自転車走行空間等整備計画に基づくネットワーク路線において、自転車通行空間を整備することにより、市内の自転車関連交通事故発生件数を2割削減する。（H29：1,148件 → H34：918件）			
	自転車通行環境の整備前後で、市内における自転車関連の人身事故発生件数を比較し、自転車事故削減率を算出する。 （自転車事故削減率（％）＝ {（H29の自転車事故発生件数）－（自転車事故削減件数）} / （H29自転車事故発生件数） × 100	1148件	1033件	918件

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	道路	一般	浜松市	直接	浜松市	国道	交安	(国)152号 中沢町～市役 所前	車道混在（矢羽根型路面表示 ） 1.5km	浜松市	■	■	■			30		-
	A01-002	道路	一般	浜松市	直接	浜松市	国道	交安	(国)257号ほか1線 市役 所前～和合町	車道混在（矢羽根型路面表示 ） 3.3km	浜松市	■	■	■	■	■	50		-
	A01-003	道路	一般	浜松市	直接	浜松市	都道府 県道	交安	(主)浜松雄踏線ほか3線	車道混在（矢羽根型路面表示 ） 12.1km	浜松市			■	■	■	160		-
	A01-004	道路	一般	浜松市	直接	浜松市	市町村 道	交安	(1)曳馬中田島線ほか1線	車道混在（矢羽根型路面表示 ） 9.1km	浜松市		■	■	■	■	130		-
	A01-005	道路	一般	浜松市	直接	浜松市	市町村 道	交安	(他)元城鹿谷1号線	車道混在（矢羽根型路面表示 ） 0.5km	浜松市	■	■	■	■	■	50		-
	A01-006	道路	一般	浜松市	直接	浜松市	市町村 道	交安	太平洋岸自転車道	車道混在（矢羽根型路面表示 ）外 22.6km	浜松市		■	■	■	■	210		-
											小計						630		

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
											合計						630		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
「浜松市公共事業事後評価実施要綱」に基づき審議を行い、評価の判定及び対応方針を決定	令和6年3月8日
	公表の方法 市ホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	自転車通行空間の整備により、自転車・歩行者が安全に安心して通行できる道路空間を創出し、自転車関連交通事故件数が減少した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	

○特記事項（今後の方針等）

本事業を実施した5年間に於いて市内の自転車関連交通事故件数は3割以上減少したが、健康増進や環境保全への意識の高まり等により、移動手段として自転車利用のニーズが一段と高まっているため、引き続き自転車通行空間整備の推進に努め、自転車・歩行者ともに安全に安心して通行できる道路空間を創出する。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	自転車関連交通事故発生件数		
	最 終 目標値	918件	本事業における自動車通行空間整備の効果が着実に発現したほか、道路利用者の交通安全意識の向上により、市内の自転車関連交通事故件数が減少したと思われる。
	最 終 実績値	779件	